

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒721-0931

住 所 広島県福山市鋼管町1

氏 名 株式会社JFEサンソセンター

印

代表取締役社長 川口 恭史(代理人)取締役工場長 茂浦 悦男

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社JFEサンソセンター		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区扇島1番地 JFEスチール(株)東日本製鉄所構内		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	酸素ガス・窒素ガス・アルゴンガス・液化酸素・液化窒素・液化アルゴン製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	***** k l	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数	台	
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO <sub>2</sub>	
連絡先	担当部署	担当部署名	技術課
		所在地	川崎市川崎区扇島1番地 JFEスチール東日本製鉄所構内
		電話番号	044-266-6412
		FAX番号	044-299-1772
		メールアドレス	0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成23年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 196,134 t-CO <sub>2</sub> (調) 193,493	(実) 224,462 t-CO <sub>2</sub> (調) 221,439	(実) 183,774 t-CO <sub>2</sub> (調) 181,307	(実) t-CO <sub>2</sub> (調)	(実) 195,908 t-CO <sub>2</sub> (調)
削減率		(実) -14.4 % (調) -14.4	(実) 6.3 % (調) 6.3	(実) % (調)	(実) 0.1 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	単位				
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値		0			
削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	ユーザーの需要増により、設備稼働率が上昇。そのため、基準年と比較して温室効果ガス排出量は増加した。
第2年度	ユーザーの需要減により、設備稼働率が低下。そのため、基準年と比較して温室効果ガス排出量は減少した。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高効率照明への順次更新</li> <li>○空気調和設備の見直し</li> <li>○圧縮機定期点検による効率改善</li> <li>○ブロー更新に伴う動力減</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高効率照明への順次更新 事務所棟内の直管型蛍光灯(24時間点灯)一部をLEDへ更新。</li> <li>○圧縮機定期点検による効率改善 圧縮機定期点検を実施。整備・清掃により効率回復。</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高効率照明への順次更新 事務所棟内の直管型蛍光灯をLEDへ更新し、1台当たり3灯を2灯へ間引きした。対象箇所は、24時間点灯である事務所棟2F管理室・1F廊下全灯。</li> <li>○圧縮機定期点検による効率改善 圧縮機2機の定期点検を実施。整備・清掃により効率回復。</li> </ul>
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	該当なし。
第1年度	該当なし。
第2年度	該当なし。
第3年度	

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. 環境マネジメントシステムに準拠した社内規定の推進 2. 廃棄物の減量化、分別化を継続 3. ローリー運転手への充填方法教育による液製品ロス低減
第1年度	1. 環境マネジメントシステムを簡易化したマニュアルを推進 2. 廃棄物の減量化、分別化を推進 3. 新規入構するローリー運転手への充填方法教育を実施
第2年度	1. 環境マネジメントシステムを簡易化したマニュアルを推進 2. 廃棄物の減量化、分別化を推進
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	128,273	t-CO <sub>2</sub>
(調)	127,965	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
京浜工場	川崎市川崎区原島1番地（JFE钢铁㈱東日本製鉄所構内）	1623	圧縮ガス・液化ガス製造業	128,273 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--